

岡崎市議会議長 様

支出番号	
------	--

会派名	民政クラブ
代表者名	井町圭孝

下記のとおり、政務活動を実施したので報告します。

政 務 活 動 報 告 書

令和 5年 5月 8 日提出

活動年月日	令和 5年 4月24日（月）～ 4月25日（火）	
氏名	井町圭孝、加藤学	
用務先 及び 内 容	1 4月 24日	用務先 長野県上田市
		内 容 アフター大河ドラマの観光政策について
	2 4月 25日	用務先 富山県富山市
		内 容 富山市エコタウンについて
	3 月 日	用務先
		内 容
	4 月 日	用務先
		内 容
備 考		

委員会・会派名	民政クラブ：加藤学、井町圭孝
視察日時	令和5年4月24日（月）13：30～15：00
視察先・概要	長野県上田市（令和5年4月1日現在） ・人口：152,986人　・世帯数：69,242世帯　・面積：552.04km ²
視察内容	アフター大河の観光政策について
選定理由（目的）	平成28年のNHK大河ドラマ「真田丸」キャンペーンの中核拠点として上田城公園内に設置された「信州上田真田丸大河ドラマ館」は、延べ約104万人の来場者があった。放送終了の翌年には特別企画展「400年の時を経て蘇る上田城」を開催している。
岡崎市の現状と課題	NHK大河ドラマ「どうする家康」を契機とした誘客、観光消費の促進を図るため、「どうする家康 岡崎 大河ドラマ館」の運営と誘客プロモーション等が行われている。大河ドラマ館の来館者数が4月9日で15万人に達成したが、一過性の誘客、観光消費とならないアフター大河の観光政策が課題である。
視察概要	【特別企画展『400年の時を経て蘇る上田城』H29.4.1～H29.11.30】 昨年に大きな反響を呼び、年間来場者100万人超を記録した「大河ドラマ館」は1月15日に閉館となったが、その後も多くの観光客が上田城に足を運んでいる状況が続いている。上田市は、全国の真田ファンや多くの観光客に向けて、2017年度も真田一族の歴史ロマンを感じられる特別企画展を開催することが決定した。 特別企画展「400年の時を経て甦る上田城」は、大河ドラマ「真田丸」で広く知られた「上田合戦」で真田軍が徳川軍を退けた上田城（尼ヶ淵など）を再現したVRコンテンツを中心に、真田一族の系譜、各地での奮闘、真田氏ゆかりの戦国武将の紹介などを通じ、当時の様子が分かりやすく実感できる内容となっている。 【主な質疑】 Q 大河ドラマ前後の観光客入込数について伺う。 A 平成26年5月21日、NHKから大河ドラマ「真田丸」の制作発表あった。放送前年の平成27年度から観光客が増加した。放送年である平成28年度は爆発的に観光客が増加した。 ※観光地（10か所）観光客入込数 H26：31,463人、H27：38,096人、H28：55,170人 H29：34,682人、H26：31,255人、 ※「上田城跡」観光客入込数（再掲） H26：15,600人、H27：21,512人、H28：34,877人 H29：17,876人、H26：15,128人、 ※「真田氏ゆかりの地」観光客入込数（再掲）

H26：618人、 H27：877人、 H28：2,048人
H29：562人、 H26：387人、



Q 大河ドラマ前、放送中の観光PR戦略について伺う。

A・情報発信として、特設サイトの開設、広報媒体の活用、大河ドラマ関連出版、新聞、雑誌への記事広告掲載などを行った。

・誘客宣伝として、報道機関との連携による番組制作・制作サポート、三大都市圏、真田氏ゆかりの自治体等へのプロモーションを展開した。

・おもてなし態勢整備として、観光ガイド養成講座、市民向け歴史講演会、事業者を対象としたおもてなし講座を開催した。

・大河ドラマ館関連イベントとして、大河ドラマ館の建設運営、サントミュージエでの特別展「真田丸」との連携、真田氏関連施設の設置運営を推進した。

・商品開発として、ロゴマークを活用した商品開発へのサポートを行うとともに、旅行商品の開発を旅行エージェントに対して行った。

・広域連携として、真田街道推進機構、真田氏ゆかりの自治体との連携によるPR活動を推進するとともに、北陸新幹線沿線自治体にPRした。



Q 大河ドラマ後の観光PR戦略について伺う。

A 特になかったと思う。あるとすれば、H29.4.1～H29.11.30に開催した『特別企画展 400年の時を経て、蘇る上田城』である。目標20万人に対し約11万人の入場者数であった。



Q 大河ドラマによる観光客の特徴について伺う。

A ・来場者の約8割は県外居住者。・県外からの来場者の8割超は関東と中部。・来場者の約8割は個人旅行。・ツアー利用者の約6割は60～70代。・交通手段はマイカー63%、団体バス21%、新幹線12%。

Q 観光滞在時間延長戦略について伺う。

A 地域の消費を増やすには、滞在時間を延ばすことが重要になる。宿泊を伴う滞在となれば、宿泊費が発生するだけでなく、飲食費などの他の消費額も上がる傾向にある。地域内の周遊を促したり、夜間のイベントを実施したりと、滞在時間を延ばせるような取り組みが効果的と考える。



Q 近隣市町との連携について伺う。

A 上田市と長野市松代町の真田ゆかりの史跡や施設を中心に県内の武将の足跡を、旧街道を巡って紹介する広域観光パンフレットを制作した。また、松本・長野・上田地域を周遊する旅行商品の開発に取り組んだ。

	Q アフター大河で分かった課題と対策・対処法について伺う。 A 対策・対処法は特になく、難しさを感じている。 Q 上記の対策・対処法の効果検証について伺う。 A なし Q 大河ドラマ放送中にアフターを見据えて取り組んだ対策について伺う。 A 特にないが、上田城跡公園の整備を計画前倒しで実施した。 Q 上記の対策の効果検証について伺う。 A なし
本 市 へ の 反 映 (意見・課題など)	【加藤学】 アフター大河ドラマの観光政策については、具体的には特別企画展「400年の時を経て蘇る上田城」が開催され8か月で約11万人の来場者があったとのことで参考になるものと思われる。しかしながら、大河ドラマで盛り上がった雰囲気を一過性のものとせず、定着させることの難しさを感じた。 ドラマに頼るものではなく、地域の特性を踏まえた一過性ではない観光施策を目指したいものだ。その一つが岡崎城天守。岡崎市のシンボルであり続け、市民に親しみ愛され、更なる素晴らしい観光スポットに向けた壮大な岡崎城天守整備事業が望まれる。 【井町圭孝】 NHK大河ドラマ『真田丸』の大河ドラマ館に来館者数100万人超を達成した上田市であるが、大河ドラマ後の観光戦略としては、大変苦労されていた。大河ドラマが変わると人々の目は次の大河ドラマへと移るし、真田氏を市としても推そうとしても市民から『真田氏だけではない』との声も上がってきたとのこと。 アフターではないが、上田市は放送期間中に大河ドラマ出演者によるトークショーを多く開催したり、市内イベントに有名人を呼ぶなどの効果により来館者数100万人超を達成したと思われる。アフター大河ドラマ後は来岡してくれる方も2年後には通常の入込数に戻ると思われるので、いかに今観光客を引き付け、岡崎ファンをつくるのが、大切であると感じた。

● 政務活動視察調査報告書 (No.政務-505)

委員会・会派名	加藤学、井町圭孝 報告者：井町 圭孝
視察日時	令和5年4月25日(火) 10:00~11:30
視察先・概要	富山県富山市 ・人口 407,542 人 (R5 年 3 月末現在) ・世帯数 184,071 世帯 ・面積 1,241.70km ² ・人口密度 328.2 人/km ²
視察内容	富山市エコタウンについて
選定理由(目的)	富山市のエコタウンの実施状況及び富山市の資源循環について学ぶ。
岡崎市の現状と課題	岡崎市にも処理業者はあるものの、集まってはいない。 また、10月からクリーンセンターへのゴミの持ち込みが100kg以下でも有料化され剪定枝や畑の残渣を発生させる市民からは苦情も寄せられている。
視察概要及び評価	1. 富山エコタウンの概要と特徴 (1) あらゆる廃棄物をゼロにすることを目指す『ゼロエミッション構想』を基軸に、地域の振興を図りながら、環境と調和したまちづくりを推進する事業で、富山市では平成 14 年に策定されたエコタウンプランに基づき、地域の独自性を踏まえた廃棄物の発生抑制・リサイクルの推進により、既存の枠にとられない、先進的な環境調和型まちづくりを行っている。 (2) 市北部の工場跡地約 18ha を『エコタウン産業団地』として活用。現在 7 社が事業を行っている。 ① (株)富山環境整備 ハイブリッド型プラスチックリサイクル施設 ② アイオーティーカーボン(株) ←施設見学 木質系廃棄物リサイクル施設 廃棄建材やダムにたまる立木を炭化させ商品化 ③ 富山グリーンフードリサイクル(株) 生ごみ及び剪定枝のリサイクル施設 ④ 日本オートリサイクル(株) 自動車リサイクル施設 ⑤ (株)エコ・マインド ←施設見学 難処理繊維及び混合廃プラスチックリサイクル施設 φ8mm と φ35 mm の固形燃料を製造 ⑥ 浜田化学(株) 廃食用油リサイクル施設 ⑦ (株)アイザック 廃棄物エネルギーセンター施設 (3) 市民の意識醸成のため、小中学生を中心に年間 7,000~8,000 人程度の施設見学を受け入れており、環境学習に利用してもらっている。 また、市民により深く環境問題について理解してもらうため、エコタウン学園を開設し、講演やリサイクルクラフト、エコサイエンス教室などを開催している。 (4) エコタウンの中に 7 社以外に交流拠点となる『エコタウン交流推進センター』を配置している。この施設は富山市の施設であり、富山市の会計年度任用職員さんでエコタウンの管理運営に当たっている。 また、この施設でエコタウン学園を月に 1 回開催している。

	2. 視察中のQ&A（一部抜粋） Q：地域との関係は？ A：定期的に行政と地域及びエコタウン内の企業間で意見交換会（エコタウン運営協議会）を開催している。また、定期的に環境測定も市が行っている。 臭気や大型車両通行に関する苦情を地域からいただくこともある。 Q：市民との関係は？ A：生ごみ回収を実施していたが今は実施していない。（生ごみはバイオガス精製に使用） 現在は、食用油の拠点回収を市民に協力してもらっている。（食用油は各主原料へと生まれ変わる） Q：行政支援はあるのか？ A：今現在の行政支援はない。エコタウン産業団地での建設時において、国や市から補助金があった。
本市への反映 （意見・課題など）	井町：資源循環型のまちづくり実現に向けて、エコタウン事業が進められている。個人的には剪定枝をリサイクルする状況を確認したかったが、今回はかなわず、代わりに(株)エコマインド社を見学させていただき、複合廃棄物を活用した RPF（固形燃料）について学ばせていただいた。この RPF はコークスの代用品としても利用されているとのことで、コークスを使っている本市のクリーンセンターにもこの商品を紹介したい。（本市の焼却炉に適正であるかは不明） 加藤：エコタウン事業は、資源循環拠点に位置付けるエコタウン産業団地にリサイクル施設を集約するとともに、エネルギー利用も含め団地内のゼロ・エミッション化を進め、先進的な環境調和型のまちづくりを行うものである。しかしながら、民間企業での採算性の確保による事業の継続性や廃棄物リサイクル施設ならではの周辺住民の理解など難しい課題がある。また、環境学習と環境活動の拠点施設として団地内にエコタウン交流推進センターが整備されているが、継続的な来場者の確保への事業展開が課題である。



説明いただいた、富山市環境部エコタウン交流推進センター所長 矢後様 と